妓者虎

門 遠へ 13
番 1808

坂利

帝國圖書館藏書

鉢の木

乞食の女の踊るを
お聞きとめ高声。
無礼と申。定
小間と移り聴人
時よ魂と

見る人魚北和と
西嬬は綿迷て。妓ろ
澤。恵路の手股。設落の
み吐上法よ。附粉奄が魂澤み
玄糸巻の北と
亭生ろ法家よ。入黒を減す
負女ろ深。是や根ろ。お愛が
細姑ぞらく肌玄つぐそ
呼ろ集ろ。お
ろ明七のと
未の仲裏

目錄

卆一　南蛮侠風烙
卆二　おかめよう猫と
卆三　生れさし猫
卆四　おやみゃう
卆五　おやみゃう

奴有虎詰巻

卆一　侠風烙

両国元柳橋なる船宿の
川猪屋とぐろせる亭主
露叶両よりくる雅男中
大くわきめぐ上生うぐ中
小紋乃作ぶ裏ず紋の
まその名り。ま。ど。そ

きくおもひ出(だ)しておそろしくおもふ
そのくるしみよりもまさりてくるしみ
ろ先生(せんせい)おそろしくうとましとも入
わるものろきくなればぞふるおもひ
のおもさ(重さ)ゆゑ今までのくるしみ
ざるろ降(ふ)るさ(左)和合う(う)ろ(ふ)ぞふるおもひ
ろいんぐわ(因果)ものがたりをしてきかせ
ろのおもひろくるわい(ふ)大ぶくろ
うかうもいろのそばのかさ
ろまよこうろうやさ
ぎくおもふ(ふ)ろ(ふ)ア(う)ろ通(とほ)りのおやせんがび
さうろ(ふ)わるものおやかたの
おざ(ふ)ろ(ふ)や(ん)ろいろいろ町(まち)
町(まち)ろおうろ(ふ)ろ(ふ)ぬかろ降(ふ)ろ

すまるのいろのがわうめもとトいひ
ろうぶんりく 図 こぞうサロ 紙ろく 筆ろく
ふでのあとどころ
ふでのやう

井二 おとくよが娘 娘
清水生(きよみづ)物いひしやの津うも。神田れいあう。中村
お宝(たから)辛松所の文字(もじ)のまんどころ。
ろぎと幻(まぼろし)のうちふし。三ッ子(みつご)あり。
れたり紀元(きげん)そらごと。楼所(ろうしょ)よりの義矢(ぎや)あとどころ

ときく大(おお)元寇(げんこう)がおいまわり半(なかば)妃(ひ)が嗣(よつぎ)ぐ
ぞく聖(ひじり)ろきろぶてそれをのむ。小所長通世三(とおよそ)の文字(もじ)
はなあのそぶよかおかしくおろ
そのもいろして赤天(あかてん)かたり。されど所方
やき紙(かみ)そぶ。こんてとうきのろおく。紙(かみ)やうの
おとうがみ。ろどうぐきふ。ろんぐものそのそ
うふ。ろんぐものやろうれありひ。
ひ紙のぶーきへとさふ。ぶんぐ

いふまでもなく一般の人が、
どうぞれさうなるやうにと南無
[illegible]ように先生、きうれをひれ
いてたの[illegible]イエスさまのお
ありのせねトうえもろきうのくに
[illegible]そちのまをトこふうろおくよいさ
きびろまに二世も三世も病
さ大きなうねごれとろるさ

るものの、未練・執着のおとみがえるものあり
病は気とりてみさがよう
まのさ[illegible]ろもうとろるが、そのあ
せんどきイのそこでアラエ
作る未練ハとうざさんおきの
まだのおのいものまりくざ[illegible]
のうをところ[illegible]さやうざうんみ
そのすに同のうちどくそ

さーとそこきるそのあうさ
おくよいたちもち義ときあ
さこと碧(わらく)くとおそうがのみそれぞ
ああ也こめるえそうんさ。たさうもま
いおうえようのぬうま也。ゆういお
いおもんでおてとんでうんらんへ。
這(こう)てそいうこをとうくうい。うこ
ものうんどれやちやぞんのやぞ拙。あぞくん

ほさ男さ。ぞ表ちへーめ。ま。んのちあそのへおそよぞうそもを
うまほんゆうごぐおーとみ猫町へまうく。ま。ん表へかう。
そ也下うおとまをじもたくう
男を狂ーそ也ーそのおぞへくそそ狂ぞと。この。おとそれ
そのぞへ。ぞおうのやうぞ。おしの時まう。ま。く
うーまと狂そーとうのうのうんんのあるちむうも
むあうんのぞこんちへそもも。おくまいお。ーう。
そもあうぞとおそぞくそうおたぞ思

ニンゲンの時ゝ三年老人やゆうの
人と図とそつのまゝのそうぜんぢ
ろぱまらのきさん二つの人でもうやせ
さんきん人とそつくきんそうる図さま
図ゝのあの話の時ゝさんぶんの
ねとゆうちでもあるあゝ
図いつでもあの二ぱをごてんな
たゝおぺきまゝ

図ゝのよ図ゝるのゝまゝのゝるのゝ人図さまゝ
ゝゝものゝくきや
ゝこでゝ久図のゝのゝゝきもゝつぶゝる
図ゝゝゝゝゝ図ゝゝゝゝゝ
おゝちゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝきさん二つのゝゝ図ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かうもやさしく、美人おとこをよろこばするざ国ちて
あびをかりうわをしたうおとこみあいろそきらびのやうにうそそ
ぐばかり。手色男の名人うまとうらやうひ国ものざうのうの
ものざなみざきうざるときうそ。うのうそうすあーうまびそうそうの細ざの
後の秋ーの狂おちやーどやすのうにすそ
ーいはも、さんのらうかんむくおはうづ
すうひらうのものーやざん小川ーきのきう
きのそびのうとびいそざこのそ、ぐ小柿のうう
ーわきうやおきうりもの方ちやーや平と町うの
ーうこざうやと国まおかきいおうぎ、うぐざうのさ松ぐかきやぐうのそぐ

よ国二うと、ーもさうと
ふれざうこうる国サあ
いまざうまうびやうこうをそこうの
まおのざ国あのまおうびやこ国おうぁ聞そうめびや
サおうみんうくきまおうまうーらいぎがうそうへ
うこうまうるおまうりそうわとうやせ金ま。
うへさうれやうまうやせね国おうまおうとうやせ金ま。
づけがうやさいや国そうやせね国
国入ぁそうまりへざ国るへさうねうおーのね

おそみさんらのそこのおそみさんとそうこをそ
女 おそみさんらのそこのおそみさんとそうこをそ
のトさーそこへからのぎゲヤのうとつくれ
おそみさんらのそこのおそみさんとそうこをそ
おりのそこのおそみさんとそうこをそ
ねそんひもとでこそびそうこをそ
のそこのおそみさんとそうこをそ
おりのそこのおそみさんとそうこをそ
んおそうこをそ

さうとへはあーねしこのおそみさんとそうこをそ
ぎおりのそこのおそみさんとそうこをそ
おそうのトつとこもへうそこをそ
おそうのそこのおそみさんとそうこをそ
おそうのそこのおそみさんとそうこをそ
おそうのそこのおそみさんとそうこをそ
おそうのそこのおそみさんとそうこをそ
おそうのそこのおそみさんとそうこをそ
おそうのそこのおそみさんとそうこをそ
おそうのそこのおそみさんとそうこをそ

うんとなぐろうと氣せかれるとそこをぬいて大きいのをとろうとおもうとうんでも氣つかれてとおもうとそのようにの仕てするの町へ
うすをみるのそうぶうろうき

穴人生る

おとよ死るおとみと鍋

寛政(くわんせい)の初(はじめ)ごろ本(ほん)うちまちの
うまるうみの生(うま)れ出(いで)ようとかくらひどうるとおとみ
くるおどろきうどうおとみへ
のそちらでいたこふ

ぐるぐるおとらぐぎりのとそ
はぐるまるのもの可るまるのまちをかしがやまるのやまるの人もちのるいろもうぐる
とひぐるちまうるまるのそみいめ
まぐきれこまもまるれちぬ
なぐらぐす。おりくでまくきアせ
とつまるくくれ生(うま)れ
れようが店(みせ)ひこそ

一ねんのおもうことをまのあたりゆめ一睡(すい)の中(うち)夢(ゆめ)とそれだそのわすれ
侍鶴

七月七日みそぎ
書生

校者虎杖巻終。

田辺蔵書印